

秋の沢旅 東北編②～三岩岳 伊南川水系黒檜沢～

【報告者】H田

【日時】2019年9月6日

【天候】快晴

【参加者】H田 ほか 会員外2名（リーダー、Fさん）

《コースタイム》

6:49 小豆温泉駐車場→6:50 国道352号より入溪→登山道横断点→二俣→奥の二俣

→11:50 脱溪（藪漕ぎ開始）→15:00 稜線登山道着（休憩）→15:35 避難小屋→17:28 小豆温泉駐車場着

《 報 告 》

2日目は、南会津にある三岩岳を頂きに持つ、黒檜沢を遡行する。

初日に引き続き、詰め上げる登山道から山頂までの距離が近いので、ピークハントも楽しみだ。

この沢も、アクセスが最高に好い。国道352号沿いにある小豆温泉スノーシェットのすぐ横に、小豆温泉駐車場（20台ほど駐車可能）があり、ここに車を止めて、スノーシェットの脇からすぐ入溪することが出来る。入溪地点である国道にかかる橋は、上・下流とも前後に滝が見えていて、どこから入のかすぐ分からなかったが、橋の上流左岸側に古びたロープが下がっているのを見つけ、そこから潜入した。

入溪早々、美しい花崗岩のナメ滝が次々と現れる。天候も良く、視界も開けていて、水量も程よくあるため滝の登りも心地よく、テンションが上がる。昨日の沢もよかったが、ここもまた好い沢だ。なんて、快適に歩いていると、途中から倒木が多くなってきた。結構な太さの倒木が、あちこち横たわっていて、せっかくのナメの美観が損なわれ、残念だ。今回も遡行図を拝借させていただいた弘田さんの記録によると、左岸側に沢と平行して登山道があり、そこで伐採したものが沢に流れ込んでいるようだった。

奥の二股を過ぎてからは、黒光りした滑りやすい岩がちょいちょい出て来るようになった。上の方にも黒光りした滝がいくつか見えているが、滑りそうで悩ましい。3人で相談し、少し早めに切り上げて詰め上げに入ろうということになった。この判断が後に大変な事態を招くことになる。

沢を外れて詰め上げを始めてすぐは、見通しのいい草原で、快適な歩きだった。ところが、大きな一枚岩のような場所にぶつかると、一転、過酷な藪漕ぎの始まりとなった。背丈よりかなり高いこの藪は、メインの根曲竹に加え、時々ハイマツが混ざり、濃く密度を増していく。さらに進むと、シャクナゲ、ツツジと、手強い相手が加わり、立ちはだかる。藪漕ぎを開始した時点で、時刻は12時頃、登山道までの標高差は、300mはあったと記憶している。草原を快適に歩くはずが、こんなところでヘビー級の藪達に阻まれては、突破するのにかなり時間を要することは容易に想像できた。だがしかし、行くしかない。腹をくくり、いつかは到達すると言い聞かせながら、根曲竹を束で掴んで手繰り寄せ、シャクナゲに叩かれ、ハイマツの枝を避けて根元をくぐり、一步一步進む。途中で何度も折れそうになる気持ちを立て直せたのは、快晴で時間も早かったのと、信頼できるメンバーのお陰だったと思う。苦節3時間強、稜線に上がる時には、全身ボロボロになっていた。Fさんは枝が目当たったらしく、途中からコンタクトの片方がズレて見えづらくなっていたという。

登山道に出た時、もう15時を回っていたため、三岩岳のピークは諦め下山路へ向かった。少し降りたところにキレイな避難小屋と小さな湿地があった。

下山の登山道は快適だったが、距離が長く、ヘッドン手前の17:30頃、なんとスノーシェットの真上に降りることができた。終わってみれば、藪も楽しい思い出（酒肴）になった。



